

会員の声

スプライトはどこに発表すべきか？

佐藤 明達

Astro-HS では、流星・彗星などの外にスプライトを観測対象に加えている。スプライトとは「雷放電に伴って高層大気が瞬間的に発光する現象」である[1]。従ってこれは高層大気中の電磁気現象で、天文学ではなく気象学の分野に属する。日本天文学会年会でも、これに関する研究発表を見たことがない。スプライトの研究は気象学会や地学教育学会の会誌に投稿するのが筋で、本研究会の会誌「天文教育」にはふさわしくない。これらの学会であれば地球電磁気学の専門家もいて、適切な助言を与えてくれるはずである。オーロラも流星と同じく大気中の現象だし、天文学をもっと広義にとらえてもいいのではないかという意見もある。確かにオーロラは電光・暈などと共に昔は天文に含まれていた[2]。しかし自然科学が進歩してくると研究範囲が膨大となって分業を余儀なくされ、分野を小分けしないと手に負えなくなった。よって地球は地球物理学者に任せ、天文学者は天体と宇宙研究に専念することとなったのである。天文学は問口が広くかつ奥が深い。天文教育関係者が取り組むべき課題は数多い。天文教育をおろそかにして気象学などに手を出すのはいかなるものか。個人的な趣味なら構わないが、天文教育では浮気はしないほうがいい。我々がやらないで、どの学会が天文教育をやってくれるというのだ？ 気象の記事を楽しむ会員もいる筈だという意見もあるが、「天文教育」を謳った会誌が気象の記事を載せるのは、会員に「はて、この会は何の研究会だったかな？」と疑念を抱かせるものだ。流星観測中にスプライトが見える、だから同じ手法で観測するのに便利だ」という声もある。これで

は未確認飛行物体の観測に移行するのめたやすいだろう。地学には天文・気象・岩石・海洋など多くの分野が含まれるから、地学教員としてはどれも平等に扱いたいだろうが、本会は地学教育ではなく天文教育に特化した研究会である。そのけじめははっきりさせたい。

私はスプライトの研究をするなど言っているのではない。研究は会誌「天文教育」以外に発表せよと言っているのだ。スプライトの投稿によって天文学そのものを扱った文章がボツまたは先送りになることを心配している。会則第2条「本会は、天文教育の振興および天文普及活動の推進を目的とする」に忠実でありたい。

参考文献

- [1]高校生天体観測ネットワーク編「スプライト観測ハンドブック 2005」p.8
- [2]佐藤明達、2005、オーロラは天文現象か、天界 No.958、p.130

[注：編集部より]

本会誌にはこれまでスプライトに関する記事の投稿はありません。また本編集部で「ある特定の原稿のためにその他の文章がボツまたは先送りになる」ようなことはありません。この記事について、会員の皆様のご意見をお寄せください。